

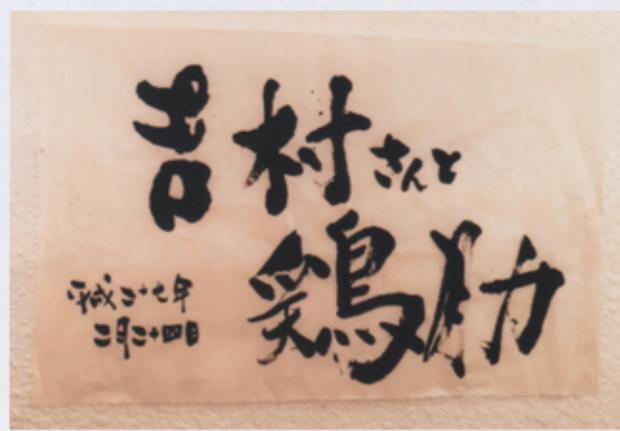


友と共に喜ぶ

ホスピタリティ番外篇（上）

本紙月曜日「走れ！おばさん」執筆の中村光子 に入れてもらって、早や五年さんから誘われて、句会になる。

「呆花会（ほうかかい）」に 発足し、十三年の歴史を持つ。句誌「草炎」を主宰している山口



壁に張られた祝宴の表題

県を代表する俳人の久行保徳氏、元新南陽市長で俳人の吉村徳昌氏をはじめ、詩人、画家、武術家、茶人、元高専教授、現役の教師など男女十一人。そのうち一人。石の上にも三年と言われるが、素養のなさはいかんともしがたく、五年経った今も上達の兆しすら見えてこない。にもかかわらず続けているのは、句会が小料理店で酒を酌み交わしながら開かれるからだ。私にとっては句会というよりも飲み会なのである。

「草炎」を主宰している山口県を代表する俳人の久行保徳氏、元新南陽市長で俳人の吉村徳昌氏をはじめ、詩人、画家、武術家、茶人、元高専教授、現役の教師など男女十一人。そのうち一人。石の上にも三年と言われるが、素養のなさはいかんともしがたく、五年経った今も上達の兆しすら見えてこない。にもかかわらず続けているのは、句会が小料理店で酒を酌み交わしながら開かれるからだ。私にとっては句会というよりも飲み会なのである。とはいえ、酔いが醒める句には向いていない」と思つて紹介者の中村さんに相談すると「何を言うの、私なんか下手なのに十三年も続けているのにな」と一喝される。そうだ!! 俳句はともかく、句会のメンバーと親しく交われるだけで十分、オリンピック精神で続けよう」と心に決める。そんな矢先、メンバーの吉村さんが喜寿を記念して句集「鶏肋（けいろく）」を出版され、送つて下さった。恥ずかしながら私は鶏肋という言葉を知らなかった。鶏肋とは鶏のあばら骨のこと。少しは肉があるので捨てるには忍びがたいの意味から「大して役に立たないが捨てるには惜しいもの」のことを言うらしい。そのような高齢者になりたいと思つていただけにわくわくして句集を開く。それにしても日本語は奥行きが深い言葉である。

先日、句会のメンバーで句集出版を祝う。戦友と言われる奥様も招待に応じ参加して下さいましたのはメンバーの喜びであった。とかくこの種の宴は名譽欲、権力欲のにおいがするものが多いが、そんなものは欠片もなく、吉村さんの人柄そのもののように実に心温まる祝宴であった。一人々々が隠し芸を披露、芸のない人はケーキを焼いたり、鶏肋と書いた紙のラシオンマットを作ったり：（これも芸ではあるが）。帝国ホテルのもてなしで、ホスピタリティとは一方通行ではなく、双方の喜びを共有するものだと書いたが、この祝宴はそれを絵にしたようなものであった。諸先輩を友人呼ばわりして恐縮だが、良き人生とは良き友を持つこと。久しぶりに兼題とにらめっこして句を詠む。「学舎の静まりかえる 露の臺（ふきのとう）」

うそうたるメンバーの中に迷い込んだ感がある。転居などで退会した人を除けば、発足当時からメンバーが七人もおられるのだから呆花会のレベルの高さがわかる。石の上にも三年と言われるが、素養のなさはいかんともしがたく、五年経った今も上達の兆しすら見えてこない。にもかかわらず続けているのは、句会が小料理店で酒を酌み交わしながら開かれるからだ。私にとっては句会というよりも飲み会なのである。とはいえ、酔いが醒める句には向いていない」と思つて紹介者の中村さんに相談すると「何を言うの、私なんか下手なのに十三年も続けているのにな」と一喝される。そうだ!! 俳句はともかく、句会のメンバーと親しく交われるだけで十分、オリンピック精神で続けよう」と心に決める。そんな矢先、メンバーの吉村さんが喜寿を記念して句集「鶏肋（けいろく）」を出版され、送つて下さった。恥ずかしながら私は鶏肋という言葉を知らなかった。鶏肋とは鶏のあばら骨のこと。少しは肉があるので捨てるには忍びがたいの意味から「大して役に立たないが捨てるには惜しいもの」のことを言うらしい。そのような高齢者になりたいと思つていただけにわくわくして句集を開く。それにしても日本語は奥行きが深い言葉である。



ご夫妻を囲んでビンゴを楽しむ